





国語問題

はじめに、これを読むこと。

(注意事項)

1. この問題用紙は二十一ページまでである。ただし、ページ番号のない白紙はページ数に含まない。
2. 解答用紙の所定の欄に、必ず氏名を記入すること。
3. 解答用紙には受験番号が印刷されているので、受験番号が正しいかどうか受験票と照合し確認すること。
4. 解答はすべて「解答用紙」の解答欄に記入またはマークすること。解答欄以外のところには何も記入しないこと。
5. 解答は、必ず鉛筆又はシャープペンシル(いずれもHB・黒)で記入すること。
6. 訂正は消しゴムできれいに消し、消しくずを残さないこと。
7. 解答用紙は、絶対に汚したり折り曲げたりしないこと。
8. 文字は楷書で正確に書くこと。
9. 解答用紙は持ちかえないこと。
10. この問題用紙は必ず持ちかえること。
11. 試験時間は六〇分である。

(マークの記入例)

良い例	悪い例
	  

(一) 次の文章を読んで、後の問に答えよ。

今でこそ、当たり前前になっているが、明治になって日本に輸入された様々な概念の中でも、「個人 individual」というのは、最初、特によくわからないものだった。その理由は、日本が近代化に遅れていたから、というより、この概念の発想自体が、西洋文化に独特のものだったからである。(中略)ここでは二つのことだけを押さえておいてもらいたい。

一つは、一神教であるキリスト教の信仰である。「誰も、二人の主人に仕えることは出来ない」というのがイエスの教えだった。人間には、幾つもの顔があつてはならない。常にただ一つの「本当の自分」で、一なる神を信仰していなければならぬ。だからこそ、元々は「分けられない」という意味しかなかった individual という言葉に、「個人」という意味が生じることとなる。

もう一つは、論理学である。椅子と机があるのを思い浮かべてもらいたい。それらは、それぞれ椅子と机とに分けられる。しかし、机は机で、もうそれ以上は分けられず、椅子は椅子で分けられない。a、この分けられない、最小単位こそが「個体」だというのが、分析好きな西洋人の基本的な考え方である。

動物というカテゴリーが、更に小さく哺乳類に分けられ、ヒトに分けられ、人種に分けられ、男女に分けられ、一人一人にまで分けられる。もうこれ以上は分けようがない、一個の肉体を備えた存在が、「個体」としての人間、つまりは「個人」だ。国家があり、都市があり、何丁目何番地の家族があり、親があり、子があり、もうそれ以上細かくは分けようがないのが、あなたという「個人」である。

逆に考えるなら、個人というものを束ねていった先に、組織があり、社会がある。1 こうした思考法に、日本人は結局、どれくらい馴染んだのだろうか？

「個人」という概念は、何か大きな存在との関係を、対置して大掴みに捉える際には、確かに有意義だった。——社会に対して個人、つまり、国家と国民、会社と社員、クラスと生徒、……といった具合に。

b、私たちの日常の対人関係を見れば、この「分けられない」、2 尾 貫した「本当の自分」という概

念は、あまりに大雑把で、硬直的で、実感から乖離している。

信仰の有無は別としても、私たちが、日常生活で向き合っているのは、一なる神ではなく、多種多様な人々である。

また、社会と個人との関係を、どれほど頭の中で抽象的に描いてみても、朝起きて寝るまでに現実に接するのは、会社の上司や同僚、恋人やコンビニの店員など、

c

具体的な、多種多様な人々である。とりわけ、ネット時代となり、狭い均質な

共同体の範囲を超えて、背景を異にする色々な人との交流が盛んになると、彼らを十把一絡げに「社会」と括ってみてもほとんど意味がない。

私たちは、自分の個性が尊重されたいのと同じように、他者の個性も尊重しなければならない。(中略)相手が誰であろうと、「これがありのままの私、本当の私だから」とゴリ押ししようとすれば、ウンザリされることは目に見えている。私たちは、極自然に、相手の個性との間に調和を見出そうとし、コミュニケーション可能な人格をその都度生じさせ、その人格を現に生きている。それは厳然たる事実だ。なぜなら、コミュニケーションが成立すると、単純にうれい、からである。

その複数の人格のそれぞれで、本音を語り合い、相手の言動に心を動かされ、考え込んだり、人生を変える決断を下したりしている。つまり、それら複数の人格は、

X

である。

にも拘らず、選挙の投票(一人一票)だとか、教室での出席番号(まさしく「分けられない」整数)だとか、私たちの生活には、一なる「個人」として扱われる局面が依然として存在している。そして、自我だとか、「本当の自分」といった固定観念も染みついていく。そこで、日常生活している複数の人格とは別に、どこかに中心となる「自我」が存在しているかのように考える。あるいは、結局、それらの複数の人格は表面的な「キャラ」や「仮面」に過ぎず、「本当の自分」は、その奥に存在しているのだと理解しようとする。

この矛盾のために、私たちは思い悩み、苦しんできた。

ならば、どうすればよいのか。

「自我を捨てなさい」とか「無私になりなさい」とかいったことは、人生相談などでも、よく耳にする。しかし、そんな悟り澄ま

したようなことを聞かされても、じゃあ、どうやって生きていけばいいのかは、わからない。自分という人間は、現に存在している。この「私」は、一体、どうなるのか。

私たちは、生きていく上での足場が必要である。その足場を、対人関係の中で、現に生じている複数の人格に置いてみよう。³その中心には自我や「本当の自分」は存在していない。ただ、人格同士がリンクされ、ネットワーク化されているだけである。

不可分と思われる「個人」を分けて、その下に更に小さな単位を考える。そのために、本書では、「分人」(dividual)という造語を導入した。「分けられる」という意味だ。

しかし、自我を否定して、そんな複数の人格だけで、どうやって生きていけるのか？

尤もな疑問である。d、ここからは、どうすればそれが可能なかを、順を追って丁寧に見ていきたい。

まず、イメージをつかんでもらいたい。

一人の人間の中には、複数の分人が存在している。両親との分人、恋人との分人、親友との分人、職場での分人、……あなたという人間は、これらの分人の集合体である。

個人を整数の1だとすると、分人は分数だ。人によって対人関係の数はちがうので、分母は様々である。そして、ここが重要なのだが、相手との関係によって分子も変わってくる。

関係の深い相手との分人は大きく、関係の浅い相手との分人は小さい。すべての分人を足すと1になる、と、ひとまずは考えてもらいたい。

分人のネットワークには、中心が存在しない。なぜか？分人は、自分で勝手に生み出す人格ではなく、常に、環境や対人関係の中で形成されるからだ。私たちの生きている世界に、唯一絶対の場所がないように、分人も、一人一人の人間が独自の構成比率で抱えている。そして、そのスイッチングは、中心の司令塔が意識的に行っているのではなく、相手次第でオートマチックになされている。街中で、友達にバッタリ出会って、「おお！」と声を上げる時、私たちは、無意識にその人との分人になる。

「本当の自分」が、慌てて意識的に、仮面をかぶったり、キャラを演じたりするわけではない。感情を隅々までコントロールすることなど不可能である。

分人をベースに自分を考えるということ、単に「自我を捨てる」ということとはどこが違うのか？

私たちは、生きていく上で、継続性をもって特定の人と関わっていかねければならない。

そのためには、誰かと会う^な度に、まったく新しい自分であることはできない。入社する度に、自己紹介から始めて、一から関係を結び直すという、バカげた話はない。

私たちは、朝、日が昇って、夕方、日が沈む、という **Y** 的なサイクルを生きながら、身の回りの他者とも、

Y 的なコミュニケーションを重ねている。

人格とは、その **Y** を通じて形成される一種のパターンである。

この人とは、こういう態度で、こういう喋り方をすると、コミュニケーションが成功する。それに付随して、喜怒哀楽様々な感情が自分の中で湧き起こる。会う回数が増えれば増えるほど、パターンの精度は上がってゆく。また、親密さが増せば増すほど、パターンはより複雑なコミュニケーションにも対応可能な広がりを持つ。それが、関係する人間の数だけ、分人として備わっているのが人間である。

また、他者とは必ずしも生身の人間でなくてもかまわない。ネット上でのみ交流する相手でもかまわないし、自分の大好きな文学・音楽・絵画でもかまわない。 **e**、ペットの犬や猫でも、私たちは、コミュニケーションのための一つの分人を所

有しうるのだ。

(平野啓一郎『私とは何か——「個人」から「分人」へ』による)

問1 空欄 a ~ e に入る語の組み合わせとして最も適切なものを次の中から一つ選んで、番号をマークせよ。

- | | | | | | | | | | | |
|---|---|-----|---|------|---|------|---|------|---|------|
| ① | a | そこで | b | ところが | c | あるいは | d | つまり | e | やはり |
| ② | a | そこで | b | あるいは | c | つまり | d | やはり | e | ところが |
| ③ | a | そこで | b | ところが | c | やはり | d | つまり | e | あるいは |
| ④ | a | つまり | b | あるいは | c | そこで | d | ところが | e | やはり |
| ⑤ | a | つまり | b | ところが | c | やはり | d | そこで | e | あるいは |

問2 傍線1「こうした思考法に、日本人は結局、どれくらい馴染んだのだろうか？」とあるが、筆者はなぜそのように考えるの

か。次の中から最も適切な説明を一つ選んで、番号をマークせよ。

- ① 常日ごろ、生身の他者との関わりやそこに生じる人情の機微をも大切に考えているから。
- ② 私たちが実際に日常生活のなかで向き合い、現実的に接しているのは具体的な人々だから。
- ③ 「八百万の神」のような宗教観が、私たちの意識の深層では依然として強く作用しているから。
- ④ いまやネット時代となり、国や人種を超えた多種多様な人々との交流に喜びを感じているから。
- ⑤ 他者の眼のないところでは、実は幾つもの顔を使い分けながら、私たちは世間を渡っているから。

問3 傍線2「尾貫」の空欄にそれぞれ漢字一字を入れて、「考え方や態度などが矛盾なく終始すること」という意味の

四字熟語を完成させよ。

問4 空欄Xに入る最も適切なものを次の中から一つ選んで、番号をマークせよ。

- ① すべて「本当の自分」
- ② まさに一なる「個人」
- ③ 表面的な「キャラ」や「仮面」
- ④ けっして「分けられない」個性
- ⑤ まぎれもない「自我」の集合体

問5 傍線3「その中心には自我や「本当の自分」は存在していない。ただ、人格同士がリンクされ、ネットワーク化されているだけである」とあるが、複数の人格のなかに、中心となるような人格が存在しないのはなぜか。その理由について、本文中の言葉を用いて五〇字以内で述べよ。(句読点も字数に含む)

問6 空欄Yに共通して入る最も適切なものを次の中から一つ選んで、番号をマークせよ。

- ① 反復
- ② 常識
- ③ 連続
- ④ 日常
- ⑤ 規則

問7 右の文章には、次の一文がある段落の末尾から脱落している。どこに入るのが最も適切か。入るべき箇所の直前の五字を記せ。(句読点も字数を含む)

【脱落文】 無欲になりなさい、という意味だとするなら、出家でもするしかない。

問8 本文の内容と最も合致するものを次の中から一つ選んで、番号をマークせよ。

- ① 背景を異にする様々な他者と交流する機会が増えれば増えるほど、そして彼らとの親交が深まれば深まるほど、「分人」という分数の分母の数は大きくなり、その分だけ経験豊かでも興行きのある人格を形成することができる。
- ② インターネットの普及をはじめとする高度な情報社会となった現代では、地縁や血縁による閉鎖的な人間関係で結ばれたかつての村社会のような、画一的な社会規範や価値観はもはや意味をもたないと言わざるをえない。
- ③ コミュニケーション可能な複数の人格をその都度作りだす一方で、「分けられない」唯一の「本当の自分」という考え方もとられて思い悩む私たちにとって、「分人」という概念の導入は、問題解決のためのひとつの手掛かりになりうる。
- ④ 巨視的な観点から、社会や共同体と個人の関係を理解するためにはとても有効だが、微視的な観点から、厳密に捉えようとすると、「もうこれ以上は分けようがない」最小単位を発見するための分析法には、ある種の限界があると言うほかはない。
- ⑤ 道行く他者とのささやかな交わりを宿縁として受けとめたり、ほんのひと時の人と人との出会いを、稀有な幸運として受けとめたりしてきた私たちにとって、明治期に突如輸入された分割不可能な唯一の自我や個人という概念は、違和感があるものだ。

(二) 次の文章を読んで、後の問に答えよ。

「リーン、リーン」、約束の時間に恋人から電話がかかってきた。しかしどんなに彼(彼女)を愛していたとしても、あるいは向こうがそうであったとしても、受話器をとらなければ、愛の言葉は伝わりもしないどころか聞こえもしない。そう、回路が繋がらなければ、コミュニケーションは成立しないのである。回路をつなぐためには、お互いにつながるような送信機と受信機をもたなければならぬ。いま、あなたのまわりには、数多くのテレビやラジオの電波が満ちあふれているが、その映像や音は受信機のスイッチをonにしない限り、つまりいま、本を開いてここを読んでいるあなたには見えもしなければ聞こえもしない。

こう考えてみると、あのヤーコブソン^{*}の図式における、コンタクトの項目は、コミュニケーションを成立させるあたりまえのことではあっても、かなりその質にもかかわる重要なことだったことがわかる。つまりコンタクトの領域では、コミュニケーションが行われる場の性格、メディアの問題、話し手と聞き手の潜在的な関係性の問題など、多様な事柄がとらえられてくるということである。

先の例でいえば、同じ愛の言葉でも、電話か、手紙か、喫茶店での会話か、夕暮れの海辺での告白か……等々、場とメディアの違いによって、たとえ同じ言葉であったとしても、そのニュアンスは大きくかわってくる。もちろんそこには彼と彼女のそれまでの関係性の問題も深くかかわっている。つきあいはじめて一週間目の「告白」だったら、一目惚れということであろうし、五年後であればすべてを理解したうえで……ということになるかもしれない。

つまりヤーコブソンのいうように、このコンタクト、話し手と聞き手との間におけるコミュニケーション回路のつながり方、その性質の違いは、記号化された情報がある特定の方向に、一回性の場における個別的な方向に向かわせる、ベクトルを与えるような機能、すなわち「交話」語りかけ機能をもっているということになる。

コンタクトの「語りかけ機能」は、例えば同じ内容のことでも、元気でピンピンしている人が「これは俺の遺言だが……」といったも、Xにふされるのがおちなのに対し、亡くなった人の机の引き出しに入っていた「遺書」が、厳粛にかつ残された人

人を拘束するような重みで受けとめられる、といった形であられる。しかし小説や物語の場合には、そうした具体的・外在的な「語りかけ機能」は括弧にくくられるため語り手の「使用」する文体の特徴を通して、読者が読み解いていくことでしかあらわれてこない。したがって小説の文体分析は、その形態的特徴だけをとりだすのではなく、そこから語り手が、ある個別的で特定の言語の使用によって、どのような関係性を聞き手とつくりだそうとしているのかを探りだす必要がある。

ある作家が書いた小説の「語り手」が使用する言語が、聞き手と一回的で個別の関係を生みだすものであるなら、読者の方はその小説の文体に即して、その語り手に対する聞き手の位置を自らつくりだしていかなければならない。コンタクトの領域の分析は、このように小説や物語に特徴的な、虚構のつまりは現実の作者と読者の関係とは異なった、この小説独自のコミュニケーション回路の生みだされ方をとらえることができるわけなのである。

この問題は、地の文だけではなく、物語世界内部の会話や言葉のやりとりにも適用することができる。ある作中人物が、別な作中人物に、どのような場で、どのようなメディア（会話なのか、手紙なのか、電話なのか、はたまた小説や詩なのか……）を使って、どのような文体でコミュニケーションをしているのかをとらえることで、その作中人物同士の人間関係の Y 的部
分をつかんでいくことができる。

とくに作中人物の会話の文体については、従来あまり文体分析の対象とはなつてこなかった。しかし、作中人物の科白から、そのメッセージの内容ではなくコンタクトの質を読み解くならば、作中人物が自らの言葉によって、相手とどのようなコミュニケーションを行おうとしているのか、という潜在項が浮かびあがってくる。

コンタクトが、コミュニケーション回路のつながり方だとすれば、その特質をとらえる基本的な項目は、[※]マルチン・ブーバーのいう、「われ↓それ」的コミュニケーションか「われ↑汝」的コミュニケーションかの違いにあるだろう。相手や、言葉が指示する対象をつきはなし、分析的・研究的に、対象化・相対化するような言葉の使用の仕方が「われ↑それ」的コミュニケーションである。それに対し、相手に呼びかけ、呼びかけられるような、応答的で相互主体的な言葉の使用、かかわることを願いつづける言葉が「われ↓汝」的コミュニケーションである。

例えば中学校の教科書にも載っている、¹「**太宰治**」の『**走れメロス**』の有名な末尾の場面を考えてみよう。

「セリヌンティウス。」メロスは目に涙を浮かべて言った。「私を殴れ。ちからいっぱい頬を殴れ。私は、途中で一度、悪い夢を見た。君がもし私を殴ってくれなかったら、私は君と抱擁する資格さえないので。殴れ。」

メロスの科白は、「殴れ」という命令文を前後に配し、中間部は平叙文になっている。「セリヌンティウス。」という呼びかけは、そのまま「私を殴れ。」「ちからいっぱい頬を殴れ。」の主語ともなるはずだ。この場合、「私」は目的格になっている。いわばセリヌンティウスにとつての殴る対象になっているのである。次の「私は、途中で一度、悪い夢を見た。」で、「私」は主格。主語となるのだが、この主語化した「私」を否定し罰することが、「殴る」という相手側の行為にたくされているのである。次の仮定法の文章では、否定し罰せられるべき過去の「私」をそのままにするなら、いま・ここにおけるコミュニケーションの場に、いまの「私」は参入できないということをメロスは主張している。過去に友を裏切ろうとした「私」を、ひたすら主語の位置からひきずりおろし、いま、ここで言表している「私」とは「**A**」¹「的關係にひき離し、ディスクールの相手に罰してもらおうことで、ディスクールの主体としての「私」を、いわば再生させようとする願望、これまでの「私」を殺すことで、「私」自身が「私」と「**B**」²「的なかかわりを回復しようとする願いがこのディスクールにはこめられている。そうすることによってのみ、メロスは、一旦は「**C**」³「的なかかわり(裏切ろうとしたこと)にはいつてしまったセリヌンティウスと」「**D**」⁴「的なかかわりを回復すること、つまりは「抱擁」することが可能となるのである。この表現を、メッセージの内容だけに還元してしまえば、こうしたコンタクトの質をめぐる転換のドラマは見えてこない。この後に、セリヌンティウスからも、ほぼ同じ形の構文で「殴れ」というメッセージが伝えられることで、二人の友の相互主体的な関わりは、「殴る」という言語外の行為を媒介に回復されることになる。そのことは逆に、言葉が行為であることを鮮やかに示している。

ある言葉に内在するコンタクトの質は、その言葉の向こう側に、その言葉がめざす聞き手をつくりだす。時枝誠記が問題にし

たように、言葉は発話されると同時に、話し手と聞き手との間に特定の力関係の場をつくりだしてしまう。この場の力関係を分析することが「ディスクール」の言語学にとっては、欠かすことのできない分析項目となる。

具体的には、日本語の場合、人称代名詞的な言葉や指示語や文末詞などに最も端的な形でコンタクトの在り方があらわれるのだが、それだけではなく、語彙と統辞論と修辭のそれぞれの角度からとらえる必要がある。語彙が内在するコンタクトは、ある特定の階層や集団の中でのみ使用される方言やジャルゴン(隠語)の中に、話し手と聞き手の言葉の運用を支える場があらわれるだろうし、専門用語や流行語にも同じようなことがいえる。

論理的な文章構造と、切れ切れの文章構造ではやはり異なった人間関係があらわれてくるし、比喩などもその使用の方向の中に、話し手が聞き手とどういう関係をつくりたいのかがあらわれている。コンタクトの在り方は、受話器の所在とその取りあげ方を指示しているのである。

(小森陽一「コンタクト」による)

(注)

ヤーコブソン……ロシアの言語学者。言語の構造と基本的機能の解明に努めた。

マルチン・ブーバー……オーストリアの宗教哲学者。対話による哲学を提唱した。

時枝誠記……日本の国語学者。西洋言語学の批判から言語過程説を提唱した。

問1 空欄Xに入る語を漢字二字で記せ。

問2 空欄Yに入る語として最も適切なものを次の中から一つ選んで、番号をマークせよ。

- ① 形態
- ② 比喩
- ③ 潜在
- ④ 主体
- ⑤ 一回

問3 本文には、次の一文が脱落している。どこに入るのが最も適切か。入るべき箇所の直前の七字を抜き出せ。(句読点も字数に含む)

【脱落文】 あったとしても、女学生言葉や書生言葉といったすでに社会的に記号化したレベルでの指摘にとどまっていた。

問4 空欄A～Dに入る最も適切な組み合わせを次の中から一つ選んで、番号をマークせよ。

- | | | | | | | | | |
|---|---|-------|---|-------|---|-------|---|-------|
| ① | A | われ↓それ | B | われ↓汝 | C | われ↓それ | D | われ↓汝 |
| ② | A | われ↓汝 | B | われ↓それ | C | われ↓汝 | D | われ↓それ |
| ③ | A | われ↓それ | B | われ↓それ | C | われ↓汝 | D | われ↓汝 |
| ④ | A | われ↓汝 | B | われ↓汝 | C | われ↓それ | D | われ↓それ |
| ⑤ | A | われ↓汝 | B | われ↓それ | C | われ↓それ | D | われ↓汝 |

問5 傍線1「太宰治」とあるが、太宰治と同じく無頼派の作家として最も適切なものを次の中から一つ選んで、番号をマークせよ。

- ① 三島由紀夫
- ② 遠藤周作
- ③ 志賀直哉
- ④ 芥川龍之介
- ⑤ 坂口安吾

問6 本文の内容と最も合致するものを次の中から一つ選んで、番号をマークせよ。

- ① 話し手と聞き手の間のコミュニケーションのつながり方によって、「語りかけ機能」が効果的に表面化することがあり、われわれの日常生活はこのようなコンタクトの質に注目することでそれぞれに相互主体的なかわり方ができる。
- ② 日常生活において使われる言葉も、小説の中で使われる言葉も、コンタクトの質に注目することで、話し手や語り手と聞き手との間に構築されたコミュニケーションの関係を知らることができる。
- ③ 小説の言葉はコンタクトの質に注目し、語り手と聞き手の相互主体的な関係性を明らかにすることで、虚構の存在と考えられている現実の作者と読者の関係を分析することが可能になる。
- ④ 日本語は人称代名詞や代名詞などからコンタクトの在り方があらわれるが、日常的な生活のレベルは恋人同士の電話や告白、あるいは遺言などの存在によって、隠蔽された語りかけの機能が顕在化することがある。
- ⑤ コンタクトの質に注目した場合、太宰治「走れメロス」は二人の友の潜在的なかわりを回復しようとする物語として読むことが可能で、そこからは「殴る」という行為そのものが相互主体的に言語を媒介としていることが理解できる。

(三) 次の文章は、『枕草子』の一節である。これを読んで、後の間に答えよ。

心もとなきもの¹ 人のもとにとみの物縫ひにやりて、いまいと苦しうみ入りて、あなたをまもらへたる心地。子生むべき人の、そのほど過ぐるまでさるけしきもなき。遠き所より思ふ人の文を得て、かたく封じたる続飯つづひなどあくるほど、いと心もとなし。物見におそく出でて、事なりにけり、白きしもなど見つけたるに、近くやり寄するほど、わびしう、下りてもいぬべき心地こそすれ。

³ 知られじと思ふ人のあるに、前なる人に教へて物言はせたる。いつしかと待ち出でたるちこの、五十日いひ、百日ももなどのほどになりたる、行末いと心もとなし。

とみの物縫ふに、なま暗うて針に糸すぐる。されど、それはさるものにて、ありぬべき所をとらへて、人にすげさるに、それもいそげばにやあらむ、とみにもさし入れぬを、「いで、ただなすげ」 X 「と言ふを、「さすがになどてか」と思ひ顔にえさらぬ、にくささへ添ひたり。

何事にもあれ、いそぎて物へ行くべきをりに、まづ我さるべき所へ行くとして、「ただいまおこせむ」とて出でぬる車待つほどこそ、いと心もとなけれ。大路行きけるを、「さななり」とよろこびたれば、ほかさまにいぬる、いとくちをし。まいて物見に出でむとてあるに、「事はなりぬらむ」と人の言ひたるを聞くこそわびしけれ。

子生みたる後の事の久しき。物見、寺詣でなどに、もろともにあるべき人を乗せに行きたるに、車をさし寄せて、とみにも乗らで待たするも、いと心もとなく、うち捨ててもいぬべき心地ぞする。また、とみにて炒炭おこすも、いと久し。

人の歌の返しとくすべきを、えよみ得ぬほども、心もとなし。懸想人などは、さしもいそぐまじけれど、おのづからまた、さるべきをりもあり。まして女も、ただに言ひかはすことは、疾きこそはと思ふほどに、あいなくひが事もあらずかし。

心地のあしく、物のおそろしきをり、夜の明るるほど、いと心もとなし。

(注)

* 続飯……飯粒を練った糊

* 白きしもと……沿道警備の任に当たった官人の持つ白い杖

* 五十日、百日……誕生から五十日・百日経ってからお祝いをする事

* 炒炭……あぶって湿気をとった炭

* 懸想人……恋人

問1 傍線1「心もとなきもの」の解釈として最も適切なものを次の中から一つ選んで、番号をマークせよ。

- ① うんざりさせられるもの
- ② 寂しさをおおるもの
- ③ 喜びを感じさせるもの
- ④ 気がかりでじれったいもの
- ⑤ 不安をかきたてるもの

問2 傍線2「わびしう、下りてもいぬべき心地こそすれ」の解釈として最も適切なものを次の中から一つ選んで、番号をマークせよ。

- ① がっかりして、車を降りて歩いて行ってしまいたい気持ちになる
- ② 悲しみのあまり、実家に帰ってしまいたいような気持ちになる
- ③ 自暴自棄になり、車から降りてでも行ってしまいたい気持ちになる
- ④ さびしさのために、地方にいる夫のもとへ行きたいような気持ちになる
- ⑤ 残念なので、車を降りていかなければならない焦った気持ちになる

問3 傍線3「知られじと思ふ人のあるに、前なる人に教へて物言はせたる」の解釈として最も適切なものを次の中から一つ選んで、番号をマークせよ。

- ① わたしのことを知らないと思われる人がいるときに、目の前の人に言い方を教えて紹介をさせている
- ② わたしのいることを知られたくないと思う人がいるときに、前にいる人に答え方を教えて話をさせている
- ③ きつとわたしのことを知らないと思う人がいるときに、以前の恋人に事情を教えて話をさせている
- ④ あまり知らない人がいるときに、前から知っている人が間に立って教えてくれて話をなさっている
- ⑤ 恋心を知られてはならないと思う人がいるのに、他の人が前にいる人に教えておっしゃっている

問4 空欄Xには助詞が一語入る。その助詞として最も適切なものを、解答欄に記入せよ。

問5 傍線4「ただいまおこせむ」の解釈として最も適切なものを次の中から一つ選んで、番号をマークせよ。

- ① 今まさにきた
- ② やつと今起こした
- ③ すぐに返そう
- ④ ただちに起こそう
- ⑤ たった今送った

問6 傍線5「さるべきをり」とはどのような「折」か。解答欄に合うように、五字以上十五字以内(句読点を含む)の現代語で説明せよ。

問7 傍線6「ただに言ひかはすことは、疾きこそはと思ふほどに、あいなくひが事もあるぞかし」の解釈として最も適切なものを次の中から一つ選んで、番号をマークせよ。

- ① 簡単な言葉のやりとりをするときは、早く反応しなければと思っているので、どうしようもない誤解を招くこともあるにちがいない
- ② 率直な言葉のやりとりをすることは、早く反応することがよいと思うので、わけもわからないうちに笑われるようなことをいつてしまうこともある
- ③ 普通のやりとりをしているときは、返歌の早いことがよいと思っっているために、つまらない失敗をすることもあるものだ
- ④ ひたすらに会話をしている間は、病気になってしまふと迷惑がかかると思うので、かえって悪いことが起きるかもしれない
- ⑤ そのままやりとりをしているときは、早く返事をしなければと気がせくあまり、思いもしないことを言ってしまうだろう

問8 作者の仕えた人物として最も適切なものを次の中から一つ選んで、番号をマークせよ。

- ① 式子
- ② 彰子
- ③ 詮子
- ④ 定子
- ⑤ 楨子

(四) 次のA～Eのカタカナの漢字と同じ漢字を含むもの、またF～Hの漢字の読みとしてふさわしいものをそれぞれの群から一つ選び、その番号をマークせよ。

A 紛争解決のためにシユウ知を集める

- ① 規則をシユウ知徹底させる
- ② 自身の行動にシユウ恥心を抱く
- ③ 事態のシユウ拾を図る
- ④ 読書をシユウ慣にする
- ⑤ 多くの聴シユウの前で話す

B 気カン支炎を患う

- ① 蒸気機カンを発明する
- ② 水道カンが破裂する
- ③ 提出期カンを知らせる
- ④ 消化器カンの病気になる
- ⑤ 連載小説がカン結する

C 初夏の日差しに新緑がハえる

① エイ画館で休日を過ごす

② 庭に雑草がハえる

③ ハえある優勝校

④ 教科書の文章をノートにウツす

⑤ 上着をハ織る

D 国をスべおさめる

① 氷の上でスべる

② 人口トウ計のグラフ

③ ス性を明らかにする

④ 悪のソウ窟を駆逐する

⑤ 必ス科目を勉強する

E キ納法で証明する

① キ械体操の選手

② 電キ製品を修理に出す

③ 伝統へ回キする

④ 人工衛星がキ道に乗る

⑤ キ憚のない意見を言い合う

F 金の亡者になる

- ① ぼうじゃ
- ② もうじゃ
- ③ ぼうしや
- ④ もさ
- ⑤ むさ

G 全国各地を遊説する

- ① ゆうせつ
- ② ゆとく
- ③ ゆせつ
- ④ ゆぜい
- ⑤ ゆうぜい

H は不備があったため、全員正解にしたと大学から発表がありました。
本文はその関係から削除されています。

